



ごあいさつ

理事長 杉本 宗之

平素より、私ども「四国ろうきん」をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

本年もここにディスクロージャー誌「2020四国ろうきんの現況」をお届けします。

「ろうきん」は、かつて「金融排除」された労働者や生活者が「相互扶助」の精神で資金を出し合って創った「協同組織の福祉金融機関」であります。「四国ろうきん」誕生以来19年、激変する経営環境の中で着実に成果をあげてくることができましたのも、会員各位をはじめ関係団体のご指導ご支援によるものであり、改めて感謝を申し上げます。

2019年度は、「第7期中期経営計画」の中間年度で最終仕上げの極めて重要な年度と位置付け、「大改革の完遂」と「高付加価値・お役立ち・提案営業」のダブルテーマを掲げながら改革施策の実行に取り組みました。

重点課題として、①経営戦略、②財務戦略、③営業戦略、④IT戦略、⑤コンプライアンス・リスク管理戦略、⑥人事戦略の6項目を掲げて、勤労者の生活向上という「理念経営の実現」や「金融包摂」による事業存続の礎を築く施策を積極的に行って参りました。とりわけ「ろうきんアプリ」の導入などIT戦略を積極推進することで次世代に向けたろうきんブランド力の向上を目指したところでございます。

その結果、収支面では、経常利益10億90百万円の計画に対し13億11百万円となり、計画を2億20百万円上回り、当期純利益8億16百万円の計画に対し9億92百万円となり、計画を1億75百万円上回りました。なお、自己資本比率は、10.49%となりました。

改めて皆様のご協力に感謝を申し上げます。

「第7期中期経営計画」の総仕上げとなる2020年度は、「四国ろうきん」の将来を左右する極めて重要な年度になります。しかしながら昨年度末から続く「新型コロナウイルスの感染拡大」で経営環境が激変したため十分な「お役立ち・提案営業」が出来ない中でのスタートとなりました。今後はこの感染症の影響で社会経済活動や雇用・所得環境が変化し勤労者のニーズも大きく変化することが想定されますが「四国ろうきん」はそうした変化に適切に対応することで「協同組織型福祉金融機関」としての社会的使命を果たし、その上で「中期計画」の完遂を目指すものでございます。

このディスクロージャー誌「2020四国ろうきんの現況」は、ろうきんの機能や役割、四国ろうきんの2019年度の業況等を取りまとめたものです。

本誌によって、私どもに対するご理解を一層深めて頂ければ幸いに存じます。

2020年7月